

令和3年産

# 気仙沼・南三陸 稲作情報 第6号

令和3年7月2日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター  
TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

## 今後の管理のポイント

- ・ 根の活力の向上，無効分けつの発生抑制のため中干しを実施しましょう。
- ・ いもち病の発生に注意し，発生が確認された場合は速やかに防除しましょう。

## 1 気象の概況

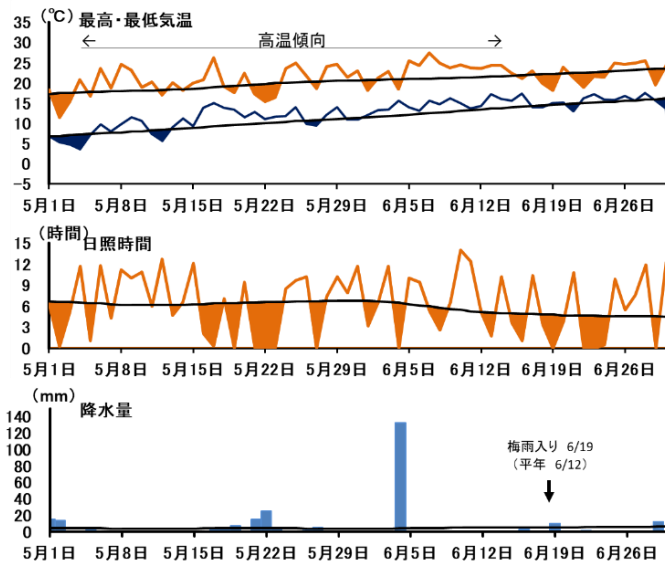


表1 気象経過（気仙沼アメダス）

	平均気温(°C)		日照時間(h)		降水量(mm)	
	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比
6月 上旬	18.1	1.8	69.4	107%	134.0	340%
6月 中旬	18.7	1.1	51.9	106%	14.0	25%
6月 下旬	19.1	0.3	58.4	128%	14.0	24%

### 【6月の気象】

- 上旬：高温，多照，多雨
- 中旬：高温，多照，少雨
- 下旬：多照，少雨

図1 気象経過図（気仙沼アメダス：5月1日～6月30日）

## 2 水稻生育調査ほの生育概況

表2 水稻生育調査結果（7月1日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ 気仙沼市 (気仙沼)	本 年	5/16	18.7	46.6	428.2	9.3	39.3
	前年比・差	-	-	-	-	-	-
	平年比・差	-	-	-	-	-	-
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/12	19.7	48.4	567.4	9.2	35.2
	前年比・差	-2	97%	96%	74%	-0.5	-7.7
	平年比・差	-3	101%	111%	100%	-0.3	-4.7
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本 年	5/13	18.2	55.1	473.2	8.7	38.8
	前年比・差	+1	98%	106%	100%	-0.9	+0.5
	平年比・差	+1	102%	112%	94%	-0.9	-0.8
県平均値	本 年			52.5	546	9.7	40.6
	平年比・差			108%	95%	-0.2	-2.2

注1) 平年値は平成28年から令和2年までの5か年の平均値（志津川は平成30年からの3か年平均）。

注2) 気仙沼は令和3年度から調査開始のため平年値，前年値ともなし。

注3) 県平均値は，県内30地点（葉数は23地点）の生育調査ほ（品種：ひとめぼれ，ササニシキ）の平均値

- 管内の生育調査ほの7月1日現在の生育は、草丈が平年より長く、㎡当たり茎数が平年並み～平年よりやや少なく、葉色値が平年より低くなっており、葉色は淡いものの概ね目標とする生育量となっています。
- 中干しを実施したほ場の現在の茎数は前回調査からほぼ横ばいとなっており、最高分けつ期を迎えていると考えられます。

### 3 今後の管理の留意点

#### 【中干し】

- 中干しは、根の活力の向上、無効分けつの発生抑制、作土層の硬化促進などの効果があります。**未実施のほ場は、速やかに中干しを実施しましょう。**
- 中干しは、「田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく」程度とします。  
→すでに中干しを実施・完了したほ場も、無効分けつの発生を抑制するため、幼穂形成期（平年：7月13日頃）までは走り水（表面に浅く水を行き渡らせる）程度とし、土の硬さを保ちましょう。
- 中干し終了後、急に湛水状態にすると土壤の還元が急激に進み、中干しをしない場合よりも酸素不足になり根を傷めやすくなります。中干し終了直後は走り水程度とし、徐々に湛水状態に戻しましょう。

#### 【深水管理】

- 「最低気温 17℃以下」または「日平均気温 20℃以下」が数日続く場合、花粉の形成がうまくいかず減収につながる可能性があります。  
→幼穂形成期（出穂 20～25 日前）の低温時には、水深 10cm 程度に湛水してください。

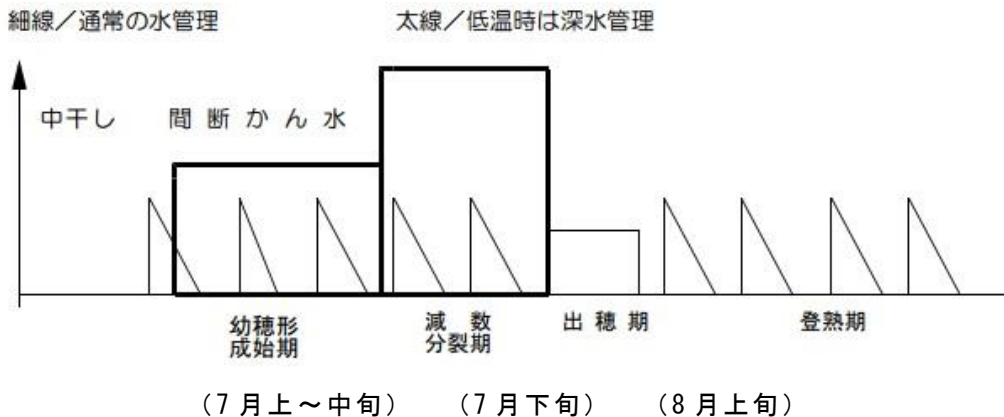


図2 出穂期までの水田水管理体系（宮城の稲作指導指針（基本編））

#### 【追肥】

- 収量・品質の確保には、幼穂形成期、減数分裂期の追肥が効果的です。生育目標値（表3）を参考に、幼穂形成期と減数分裂期に追肥（窒素成分量それぞれ 1kg/10a）※を施用しましょう。

※葉色が濃い場合や草丈が長い場合、茎数が多い場合は追肥を省略・減量してください。

表3 適正穂数及び品質を確保するための生育目標値「ひとめぼれ」（普及に移す技術第86号）

	分けつ最盛期頃	最高分けつ期頃	幼穂形成期頃	減数分裂期頃
草丈(cm)	32～34	45～48	56～59	66～69
茎数(本/㎡)	310～360	460～520	470～530	450～500
葉緑素計値	41～44	40～42	38～40	35～37

※生育ステージの記載は、暦日を基に一部改変した。

※減数分裂期頃の葉緑素計値は期待葉色値を用いた。

**表 4 幼穂の長さとお穂までの日数の目安**

生育ステージ		時 期 本吉「ひとめぼれ」平年値	出穂前 日数	幼穂長 (mm)	葉耳間長 (cm)
幼穂形成始期		7月13日	25日	1~2	-
減数分裂期	始期	7月23日	15日	30~40	-10
	盛期	7月26日	12日	80~100	±0

注) 葉耳間長：止葉の葉耳とその下の葉の葉耳との間隔によって、出穂前日数を予想することができます。

**【雑草防除】**

- 初中期一発剤を散布したほ場でも残草があれば、雑草の種類や葉齢、稲の生育ステージを確認し、中・後期剤等を適期に散布しましょう※。  
※雑草がすでに大きくなっている場合は、比較的効果の高い茎葉散布剤や粒剤の落水散布を検討してください。
- ヒエやイヌホタルイ、シズイ等の雑草は、稲の出穂前に斑点米カメムシ類を水田に呼び寄せ、斑点米発生による落等につながります。雑草対策を徹底しましょう。
- 畦畔や農道、雑草地、休耕田等のイネ科雑草は、カメムシ類の主な増殖源となるので、計画的な草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑えましょう。  
→畦畔など、水田周辺の草刈りは出穂 10 日前までに行い、それ以降の草刈りは実施しないようにしましょう（出穂直前の草刈りは斑点米カメムシ類を水田に追い込み、斑点米の発生を助長します）。

**【病害虫防除】**

① いもち病

- いもち病の感染が始まっています。箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、水面施用剤（粒剤、パック剤）を速やかに散布しましょう。
- 箱施用剤等による予防防除を実施した場合でも、発病がみられたときは、速やかに茎葉散布剤で防除してください。
- 葉いもちは、直接収量や品質に影響を及ぼす穂いもちの伝染源となります。予防防除が基本であり、発病が進展してからの防除では十分な効果が期待できないため、水田をこまめに見回り、早期発見と防除に努めましょう。  
→特に、追肥後は罹病しやすくなるため注意してください。
- 病害虫の発生予察情報や最新の葉いもち感染好適条件の出現状況は、県病害虫防除所ホームページで確認できます。URL (<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>)  
※発生予報第4号では、県内の葉いもち発生時期は平年よりやや早い7月6～10日に発生開始、発生量はやや多い予想となっています（宮城県病害虫防除所 令和3年6月25日発行）。

② コバネイナゴ

- 齢が進んでから薬剤散布を行うと効果が低下するので、本田侵入盛期（7月6～10日）を目安に中齢幼虫（体長 1.5cm 程度）の時期までに防除を行ってください。

## ○だて正夢の栽培管理

表 5 だて正夢現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果（7月1日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色値 (GM)
だて正夢 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/14	21.1	48.5	626.7	8.8	31.5
	前年比・差	+1	101%	93%	133%	-0.7	-11.4
	平年比・差	+1	108%	104%	144%	-0.4	-9.9
だて正夢 県平均値	本 年	-	-	58.2	498	9.8	41.9
	前年比・差	-	-	105%	103%	-0.1	-2.8

注 1) だて正夢は平成 29 年から調査開始のため、平年値は令和 2 年までの 4 か年平均。

注 2) 県平均値は、県内 9 普及センター＋古川農業試験場の平均値。平年値はないため、前年との比較

- ・「だて正夢」は「ひとめぼれ」よりも茎数の増加が緩やかで、葉色がかかなり濃く維持される特徴があります（図 3）。
- ・中干し未実施のほ場は速やかに中干しを実施しましょう。
- ・標準の追肥は減数分裂期（7月 25 日頃）に窒素分 2kg/10a ですが、葉色の低下が早い場合は前倒しでの実施も検討してください。

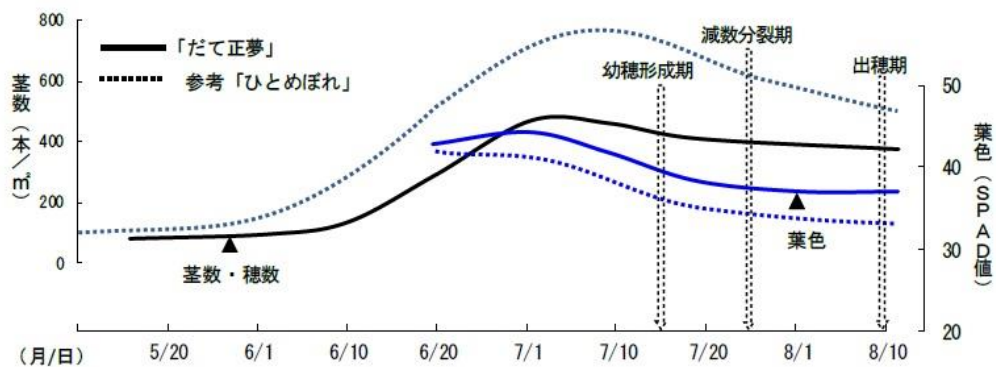


図 3 「だて正夢」生育のイメージ（宮城県「普及に移す技術」第 94 号より）

注）平成 28～30 年栽培試験にて適正な粒数・収量・品質を得た試験区の生育をもとに作図

## ○金のいぶきの栽培管理

表 6 金のいぶき現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果（7月1日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色値 (GM)
金のいぶき	本 年	5/11	19.1	46.4	550.1	9.1	31.9
気仙沼市	前年比・差	-	-	-	-	-	-
(本吉町)	平年比・差	-	-	-	-	-	-

注) 金のいぶきは本年度から調査開始のため、前年・平年値はなし

- ・「金のいぶき」の目標収量（表7）を達成するため、生育量の目安（表8）を参考にした管理を行いましょ。
    - 茎数は順調に増加しています。無効分げつの発生を抑制するため、中干し完了後も幼穂形成期（7月15日頃）までは走り水程度のかん水とし、土の硬さを保ちましょ。
    - 本年は生育量の目安よりも葉色の低下が早いため、追肥※をしっかりと行いましょ。
    - ※幼穂形成期（7月中旬）、減数分裂期（7月下旬）にそれぞれ窒素成分量 1kg/10a
  - ・「金のいぶき」は、いもち病に非常に弱い品種なので、普及に移す技術「「金のいぶき」のいもち病防除体系 追補（第93号参考資料）」等を参照し、育苗箱施用剤を使用している場合でも、水面施用剤（パック剤・粒剤）や茎葉散布剤の体系処理を検討してください。
- ※「金のいぶき」の作付けにあたっては、「水稻新品種「金のいぶき」生産対策実施要領」に基づく登録が必要となるため、詳しくは最寄りの農業改良普及センターまたは県みやぎ米推進課に確認してください。

表 7 金のいぶきの収量構成要素の目安（宮城県「普及に移す技術」第95号）

精玄米重	㎡当たり穂数	一穂粒数	㎡当たり粒数	登熟歩合	玄米千粒重
510～540kg/10a	460～510本/㎡	60～68粒	30～33千粒/㎡	70～75%	22.4～23.0g

注) 篩目1.85mm

表 8 金のいぶきの生育量の目安（宮城県「普及に移す技術」第95号）

項目	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
	7月15日頃	7月25日頃	8月10日頃
草丈 (cm)	65～70	83～88	
茎数・穂数 (本/㎡)	570～620	490～540	460～510
葉色 (SPAD値)	33～35	30～32	31～33
主茎葉数 (葉)	11.0～11.4	12.0～12.4	12.9～13.3

## ○直はの栽培管理

表 9 水稲直は現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果（7月1日調査）

品 種 地区名		播種日	播種密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ	本 年	5/6	20.4	36.8	848.6	8.6	39.7
気仙沼市	前年比・差	-2	105%	116%	260%	+0.9	+0.9
(本吉町)	平年比・差	-8	105%	114%	182%	+0.6	-0.6

注 1) 播種方式は鉄コーティング湛水直は（点播）によるもの。

注 2) 平年値は平成 28 年から令和 2 年までの 5 か年の平均値。

- 茎数は急激に増加し、現やや過剰となっています。過剰な茎数は無効分けつの増加、収量・品質の低下（過剰な籾数による登熟不良）につながるため、中干しを行っていない場合は速やかに実施しましょう。
- 鉄コーティング湛水直はは土壌表面に播種しているため、移植栽培と比較して倒伏しやすくなります。溝きりや中干しをしっかりと行い、倒伏を軽減しましょう。
- 今後発生してくる雑草や病害虫は、基本的には移植栽培と同様に実施します。  
→ただし、直は栽培は移植栽培と比較して 7~10 日程度生育が遅くなるため、斑点米カメムシ類等の防除時期も生育にあわせるように注意しましょう。

○東北地方の1か月予報（7月3日～8月2日までの天候見通し）によると、予想される向こう1か月の天候は次のとおりです。

期間中の気温・降水量は平年並か高く（多く）、日照時間は平年並か少ない見込みです。曇りや雨の日は7月16日まで平年より多く、以降は平年並の見込みです。

気温は7月9日まで平年並か高く、以降は平年並の見込みです。

（仙台管区気象台 令和3年7月1日発表）

[https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area\\_type=offices&area\\_code=040000&term=1month](https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=040000&term=1month)

○気象から見た栽培管理のポイント

→降雨や昼夜の温度差による結露、追肥による抵抗性の低下により、いもち病（葉いもち）が発生しやすくなる時期です。

→育苗箱施用剤や水面施用剤（パック剤・粒剤）をまだ施用していない場合は、速やかに散布するとともに、すでに防除を行っているほ場も発生がみられる場合は追加防除の実施を検討してください。

→7月上旬まで、最低気温が17℃を下回る可能性は低いですが、天気予報に注意し、低温が予想される場合は10cmの深水管理を行いましょう。

4月1日～6月30日は「春の農業安全確認運動」の実施期間です。

スローガン「見直そう！農業機械作業の安全対策」

6月1日～8月31日は「令和3年度宮城県農薬危害防止運動」の実施期間です。

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名・対象病害虫や雑草、収穫前日数等の登録情報をラベルやウェブサイト等で確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って使用しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産省のウェブサイト（下記）※で確認できます。

URL (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

※「農薬登録情報提供システム」の更新に伴い、令和3年3月10日より農林水産消費安全技術センターのウェブサイトから移動しています。